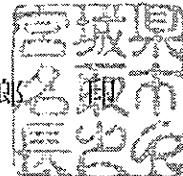


名建収第258号
平成20年10月20日

国土交通省道路局長 殿

名取市長 佐々木一十郎



今後の道路行政についての意見・提案の提出について（回答）

平成20年9月19日付け国道企第37号で依頼のありましたこのことについて、別紙のとおりです。

記

- 提出様式
- ・道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など（様式①）
 - ・地域の現状と抱える課題（様式②）
 - ・地域の目指すべき将来像（様式③）
 - ・道路施策の重点事項（代表事例、期待する効果や評価等）

担当 宮城県名取市建設部建設課
電話 022-384-2111

(生活道路等への整備要望について)

幹線道路整備については、諸条件等（総事業費、費用便益比など）をクリアすれば事業採択され予算化されます。しかしながら、地方都市の道路整備は大都市圏と違い道路整備率が低く交通事故や生活道路への車両増加等の問題に繋がっており、まだまだ不十分であり、地方都市の道路整備を重要路線と判断し補助事業採択要望路線については今後も事業化して頂きたい。

また、小集落等の生活道路整備などはいまだ実施が困難な状況であり、単独事業で僅かずつ行っているが、生活道路は1路線につき年平均20～40mずつしか進まない状況である。生活道路（狭隘道路）の拡幅や既存道路の修繕を要望する声が強く、日常生活における身近な道路整備についても目を向けていかなければならないし、道路照明灯や防犯灯については補助事業に採択されない場合がある。これらの基準の緩和、見直し等について検討していただき、今までの道路整備（つくる）から道路改善（つかう）という観点での整備も重要であり、柔軟な補助メニューを要望する。

今後の道路行政についての意見・提案

②-1 地域の現状と抱える課題

様式 ②

宮城県名取市

○現状	○課題
<ul style="list-style-type: none">・旧市街地の道路は、狭隘な道路が多く通学路や病院付近の歩道が整備されていないので歩行者の事故などが懸念される。・既存道路の劣化が進み住民からの要望に追いつかない状態である。・道路新設や拡幅の場合、信号機の設置が必要になり、開通支障をきたす場合がある。	<ul style="list-style-type: none">・狭隘道路の拡幅は道路整備による効果が出しにくく、補助事項になかなかのれないため自治体の単独予算では進捗率が進まない。また、補修系の補助は必要額に対してカット率が大きい。・生活道路での住民の安心安全でバリアフリー社会に対応した道路整備が課題であり、コスト縮減に目を向け、必要最低限の費用で効果のあがるよう努力していく必要がある。・道路新設者も、信号機設置が可能であれば良いと思う。

②一 2 地域の目指すべき将来像

道路ネットワークの充実と地域の独自性のある道路整備。

生活基盤として誰もが快適で、やさしい、安心安全な道路整備を目指すことが必要である。通勤、通学などの歩道整備や病院までの重要拠点までの緊急輸送道路整備など日常生活の道路整備が必要である。

特に地方都市では道路事情や自家用車の普及、高齢化等により、地域の実情に合わせた総合的かつ計画的な道路行政が行われ、住民が真正に必要な生活道路整備に予算を割り当てられるのが望ましい。

そのためには、道路行政の権限及び財源を地方に委譲することが必要である。効果として各地域間の連携を高め、交通状態、気象等に合わせた地域の独自性のある道路整備を行い、地域交通の活性化の推進が期待できると思われる。

今後の道路行政についての意見・提案

様式 ④

宮城県名取市

③道路施策の重点事項（代表事例、期待する効果や評価等）

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
少子・高齢化社会に対応した子育て環境	開発が進んでいる市道の交通量が増加し歩道と農作業車両が混入して非常に困っていた。	歩道と低速車を完全に分離して安全に通行が可能となった。	